



SSKP

ことのほ

2024年4月
通巻076号



\\ ようこそ! \\

特集

万葉の里 オープンデー

~輝ける場・出会いの場~

こちらもぜひチェックしてください!

右のQRコードを読み取ると、法人ウェブサイトに移行します。 <https://www.manyounosato.or.jp>



特集

万葉の里 オープンデー

!! welcome !!

輝ける場・出会いの場

2023
10/8日
13:00 ~ 15:00



令和5年5月より、新型コロナウイルスの位置づけが5類感染症へ移行し、社会全体で様々なイベントや行事が再開される中、万葉の里では、令和5年10月8日(日)に「万葉の里オープンデー」という新たなイベントを開催しました。

今回の特集コーナーでは、そのイベントの様子を当日の写真と併せてお届けします。

1F

販売コーナー

創作品や食品などの販売を行うコーナーを設けました。利用者さんが活動の中で作った手ぬぐいや組みひもなどの創作品のほか、地域の農家から仕入れた国分寺産の野菜などを販売し、店頭ではお金や商品の受け渡しなどを利用者さんが行いました。



喫茶いずみ

スイーツいずみのお菓子の販売に加えて、店内で飲食可能なパフェづくり体験を実施しました。販売したお菓子は開店から一時間ほどで売り切れ、パフェづくり体験にはお店の外にまで順番待ちの列ができました。



2F

太陽活動体験

利用者さんと一緒に行う組みひもづくり体験や、活動室で使用している移乗リフトの試乗など、普段の活動を体験することができるプログラムを企画しました。



つばさ交流サロン

交流サロンでは、「地域活動支援センターつばさ紹介パネル」の展示のほか、コースターや折り紙づくりなどの創作体験コーナーを企画しました。創作体験では、こどもから大人まで幅広い年代のお客様が作品づくりを楽しみ様子が見られました。



3F

ボッチャ大会

3階の活動室では、パラリンピックの種目の一つである、「ボッチャ」というスポーツを開催しました。ボッチャは「年齢、性別、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒に競い合えるスポーツ」とされており、会場にいる全員が参加してボッチャを楽しみました。





多目的室 パフォーマンス フロア

利用者の声

- 普段のはばたぎの活動とは違う特別な体験ができた。
- 機会があれば、またはばたぎのみんなでバンド演奏をやってみたい。

13:10~13:30

はばたぎ:バンド演奏

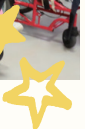
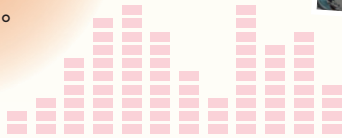
自立訓練事業はばたぎの利用者の皆さんが、ピアノやハンドベルなどの楽器を使用して、バンド演奏を披露しました。



13:45~14:30

太陽:エアロビクス

生活介護事業太陽のプログラムで活動している先生が講師となり、参加型のエアロビクスを行いました。会場の全員が音楽に合わせて体を動かし、当日のイベント一番の盛り上がりを見せました。



14:40~14:50

この里:フラダンス

生活介護事業この里の利用者さんが、日々余暇活動の一つで行っているフラダンスを披露しました。イベント終盤の時間帯ということもあり、会場に収まりきれないほどのお客様が集まり、あたたかな雰囲気になりました。



利用者の皆さんが輝ける場として

国分寺市障害者センター 管理者 伊佐 素子

今回は、「普段の活動の延長線上で、利用者がホストとして活躍する」ことをコンセプトに企画しました。利用者が普段どんな活動をしているかを知ってもらうこと、利用者が慣れた環境や活動の中で来館者と交流することを意識し、各コーナーが工夫を凝らしました。短い時間ではありましたが、来館者数は200名を越える賑わいでした。

このような形で開催しようと思ったきっかけは、市民福祉講座等で館内見学を行った時に、「初めて館内に入った」、「センターには何度も来ているけど、この部屋は初めて見た」等、想像以上に今の障害者センターを知らない方がいらっしゃるのを実感したことです。また、コロナ禍でご家族の方も来館する機会が減り、「普段の活動の様子がわからない」とのお声も届いてい

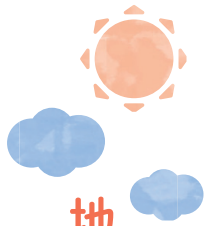
ました。人々の交流が再開し始めた今こそ、「私たちがここで何をしているのか」をアピールしていく必要があると思ったのです。

企画会議で、各事業から沢山の企画が発案されたのは、各担当者が利用者の皆さんが生き生きと活動を楽しんでいる様子や、お仕事を頑張っている姿を知っているからであり、その姿をご家族や地域の皆さんにお伝えしたいという熱意の表れだったと思います。どんな説明よりも、利用者が活躍している姿を見ていただくことが、万葉の里を知っていただく一番良い方法だと思います。

今後も利用者の皆さんが主人公で輝けるようなイベントとして、そして、皆さんとの出会いの場として育てて参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



住み慣れた国分寺で 共同生活支援事業所 万葉の里 ケアホーム ひかり



地域の中で実現していくそれぞれの生活

ケアホームひかり（以下、「ひかり」という。）は平成21年6月、国分寺市内に開設された万葉の里ひとつ目のグループホームです。開設当初は男女混合の定員6名1ユニットで運営を開始しました。平成24年6月には改装して、男女6名ずつの定員12名2ユニットで改めてスタートし、現在に至ります。

ひかりは「プライバシーが守られた住みやすい環境」と「一人ひとりのニーズの実現」を大切に、利用者が安心・安全に生活できる環境を整えて、仕事や余暇活動でやりがいや楽しみを見つけられるよう、日々の支援を行っています。

ひかりで生活している皆さんは、元々国分寺市内在住の方々です。ひかりに入居する前も後も同じ市内に住み続けられることには、とても大きな意味があります。

平日はひかりから職場や通所先へ行き、休日はご自宅に戻りご家族と一緒に過ごすようなライフスタイルを実現することができます。また、ひかりに入居する前から利用してきたサービスも続けることができるため、慣れている職場に通い続けたり、信頼関係のあるガイドヘルパーとお出かけをすることもできます。利用者の皆さんは環境の変化も少なく、住み慣れた街での生活を継続できます。

ひかりの近くには、路線バスやコミュニティバスが

通っています。最寄りの国立駅にも歩いて行けます。利用者の皆さんは、公共交通機関を利用して自分で通所をしたり、休日にはガイドヘルパーと様々なところに出かけて、好きな買い物をしたり食事や映画等の外出を楽しんでいます。

こうしたひかりの地理的な環境を活かしながら、住み慣れた地域の中で、ご家族や支援者のサポートも受けて、主体的に自分自身の生活を築いていくことが、利用者の安心と自己実現につながっています。

そして、ひかりでは地域とのつながりも大切にしています。これまで、地域の自治会の見回り活動や、近隣で開催されるお祭りに参加してきました。そうした取組の積み重ねもあり、最近では利用者から近所の方に挨拶をしたり、近所の方が利用者を見かけると声をかけてくださる場面も多くなりました。

これからも地域との関わりを大切にしながら、安心、安全な環境の中で、利用者の望む生活の実現に向けて取り組んでいきます。

グループホームとは

「障害者総合支援法」では、「共同生活援助事業」と規定され、「主として、夜間において、共同生活を営むべき住居において相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の支援を行うこと」と定められています。

ケアホームひかり

(令和6年4月現在)

対象者：国分寺市在住で、共同生活援助の支給決定を受けている方

定員：女性6名、男性6名

行事等：クリスマス会、花見等季節行事、誕生日会、その他利用者の皆さんと話し合っイベントを実施しています。

その他：日中の時間帯は、地域社会とのつながりを大切にするため通所サービス等をご利用いただいています。



ケアホーム
ひかり



写真館

何気ない生活の
ひとコマ





第5回は、精神疾患のある方の自宅を訪問し、日常生活やこころのケアをサポートされている「訪問看護ステーションナーシングウィン」小野加津子看護師(写真左)と角田知子作業療法士(写真右)にお話を伺いました。

Let's connect at Kokubunji City!
Let's
訪問看護



地域活動支援センターつばさ(以下「つばさ」という。)の研修で講師をすることになったきっかけ

角田●利用者支援を通して、つばさのスタッフとつながりました。利用者さんが自分の利用している福祉サービスについて、思うことを話してくれた時に、もしかすると支援スタッフも悩んでいるのではと感じることがありました。私たちが客観的に見えていることをスタッフと共有し、利用者さんへの関わり方に変化が起こればよいと思ひ、講師を引き受けました。

小野●利用者さんから対人関係の悩みを相談された時に「そういう人だから諦めよう」と我慢させてしまう方法は、その後相談がしづらくなるだけでなく、問題に対処する力が衰えてしまいます。つばさは、利用者さんにとって相談の中心となる場所なので、我慢させるのではなく、できることを広げられるような関わり方をしてほしいと思っています。

角田●スタッフが、研修で専門的な知識や障害・病気に対する理解を得ることで、「困っている人」という見方から、「この部分について困っている人」と具体的に説明できるようになってきました。スタッフ自身が問題点を整理し、分析できるようにな

ったことは、研修による成果だと感じます。
精神科訪問看護の仕事や、やりがいについてお聞かせください

小野●訪問看護というと、入浴の介助や薬の管理、褥瘡のケアなどを看護師が行うというイメージがあると思います。実際にそのような支援も行いますが、「〇〇がしたい」という希望を実現するために、薬や病状を管理するだけでは充分ではないことがあります。また、人から管理されている生活は、利用者さんにとって、とても苦しく希望を持ちにくくなります。私たちは、看護師が行う身体的サポートと、作業療法士が行う生活面や環境面の分析の二つの側面からアセスメントを行います。利用者さんの希望に沿った生活を実現するために、どちらも欠かすことのできない専門性だと考えています。

角田●作業療法士は、「洋服を買いたい」けれども精神症状がつかうて外に出られない人が、洋服を買ったためのどこに困っているのかを見つけ出し、改善できることを提案します。発達障害のある小学生が、相手の表情を読み取れないために友達との関わり方が分からず、相手をたたいてしまうという困り事に対し、訪問時に相手の表情を読み取るコツを、遊びに取り入れて練習し

ます。繰り返しうちに「何で友達が怒っているかちょっと分かってきた」と、成長していく姿を実感できうれしいです。

日々心がけていること、これからの展開について教えてください

小野●私たちは、訪問看護の支援者という前に、対人関係を大切にしています。うれしい時は一緒に喜び、怒っている時は一緒に怒る。私たちが困っていたり辛い時に、利用者さんが励ましてくれることもあり、お互いに影響し合う関係性になっていると思ひます。

角田●一つの事業所では出来なくても、地域の事業所のような職種の方が集まりアイデアを出し合うと、利用者の希望が実現できることが増えます。今後の目標は、『困っている人がいた時に、地域の事業所の支援が何層にも重なって、必ずどこかにつながる』ことができる『地域のネットワークを作りたい』と思っています。

小野●国分寺市では、利用者さんの生活の基盤を医療サポートで整え、次のステップである地域生活や就労を支える福祉サービスへつながるネットワークができていく実感があります。これからも国分寺のネットワークの中で、実践を重ねていきたいと思ひます。



職員リレー紹介



あかいし なおこ
赤石 直子
看護師
勤続年数：16年
好きな言葉：自分らしく
趣味：ハイキング・温泉

前職までは、医療現場で勤務していましたが、違う視点で仕事をしたいと思い万葉の里で働き始めました。利用者さんには生活のベースがあり、そこに支援する人がいることで、健康な状態を保ち、地域生活を続けることができます。看護師として、その健康維持をサポートする大事な役割を担っていると感じています。

医療的ケアを必要としている方でも、普段は家族が行っているケアを看護師が担うことで、たくさんの仲間と社会参加ができます。これも看護師ならではの支援だと思えます。家族はもちろん、様々な分野の専門職が協力し、利用者さんの生活を支えています。その連携が、心地よい関係になるように、どんな時でも「コミュニケーション」を大切にし、たくさんの言葉を交わし「協働」していきたいと思えます。

そして、日々元気に通所する利用者さんと顔を合わせて「おはよう」と挨拶をすると、嬉しくて思わずこちらも笑顔になります。「いつまでも元気で」をみんなで作りたいですね！

がなほのぶこ
次回は我那覇信子さんの紹介です



あおき よしこ
青木 佳子
通所支援1課 生活介護事業太陽
勤続年数：4年
好きな言葉：一期一会
趣味：植木いじり&大相撲観戦

学童保育所に勤めていた頃、夏休みに児童たちと障害者センターに行ったことが、万葉の里との出会いです。その時に会った利用者さんの生き生きとした笑顔が、とても印象的でした。障害のある児童にも多く関わっていたことがご縁で、障害者センターのショートステイを利用していた児童のご家族から「ショートで働いてみない」と誘われ、しばらく学童と兼業していました。次第に、障害分野を専門にしたいという気持ちが強くなり、本格的に万葉の里の職員として働くことになりました。

利用者さん一人ひとりと真剣に向き合い関わるうちに、得意なことや苦手なこと、好きな食べ物や飲み物など知ることができました。また、利用者の皆さんが驚くほど感性が豊かで、色々なことができることを新たに発見し、私自身が学ばせていただくことが多いです。

ご自宅やグループホームとは違った場所で過ごし、笑顔で帰られるよう、そして太陽が好きだと思えるような支援をしていきたいと思えます。「利用者さんの笑顔は私の宝！」

しがみか
次回は志賀美香さんの紹介です



ふじき ゆうすけ
藤木 佑介
国分寺市障害者基幹相談支援センター
勤続年数：7年
好きな言葉：不易流行
趣味：草野球、麻雀

「この人といると、よくわからないけど、なんかほっこりする。」と思われる存在になりたい。これは、仕事だけでなく、私生活においても、私の核となる想いです。相手が心地良さを感じられる接し方ができれば、自分も相手からプラスのパワーを得ることができます。そうすると物事大抵のことは良い方向に進み、みんながHappyになれると思っています。

そのため、自分の表情や、声のトーン・大きさ、纏っているオーラ（雰囲気）などが、相手と接するときに圧力とならないように心がけています。

これまでに会った人たち、これから出会う人たちみんなに、一緒にいると「いつも笑顔になれる。」「なんか安心する。」と思われるよう、そして私の魅力となるよう精進していきます。

私がこれまでに出会い、このような人になりたいと尊敬する人たちのように、いつも笑顔で、人を大切にし、そして後ろを振り返ったときに、自分を慕ってくれる人がたくさんいる、そんな人に私はなりたい。

ごすぎ おさむ
次回は小杉理さんの紹介です

いやしほの事

〜いとしほがありがとうございます〜

万葉の里では、平成15年度から令和元年度までの17年間、利用者やご家族、関係者、地域住民等の交流イベントとして、国分寺市障害者センターを拠点に「はばたけ!! サンサンゆめまつり」を行ってまいりました。しかし、残念ながら令和2年度は2月から感染拡大した新型コロナウイルスの影響で中止となり、令和3年度は各施設をオンラインで結び「おまつりウィーク」として、イベントの内容を工夫し実施しました。また、令和4年度は、12月の障害者週間に合わせて、イベントを組みました。

さて、令和5年度は5月に新型コロナウイルスの位置づけが5類に移行することに伴い、どんなイベント内容にするのか。たまさかこの年はいずれもプラザの大規模修繕が行われており、駐車場の利用もままならない状態でした。

そんな中で、「はばたけ!! サンサンゆめまつり」から「万葉の里オープンデー」と名称と装いを変え、利用者がホストとして国分寺市障害者センターに皆さまをお迎えし、普段の様子や

利用者の発表等を通じて、利用者ご家族、関係者地域住民等と直接交流をする機会を設けることで、より身近に活動を知って頂くイベント企画として、再出発することとなりました。

万葉の里では初めての試みということもあり、どのような評価を頂けるか内心気になっていたところでした。しかし、当日は200名を超えるお客様が来場し、当日の参加者からのアンケートを読むと、「楽しかった」という意見が多く寄せられ、また「子どもがたくさん参加してくれて良かった。未来の力だ」「普段の利用者の様子がかげえ、リアルだった」「利用者と話ができて良かった」「利用者が生きいきしているのが良かった」「体験コーナーが良かった」など概ね好評でした。

「こんなやり方があってもよいのではないか」と胸を撫でおろしたところ。多くの皆さまのご来場に感謝申し上げます。

(理事長 室地 隆彦)



編集後記

昨年のオープンデーでは、写真撮影のため館内の巡回をしていましたが、開館前には各フロアで館内の装飾や販売・展示の準備を行う様子や、多目的室では、利用者さんが演奏のリハーサルを行うなど、職員・利用者ともに真剣に取り組んでいる姿が見られました。

また、久々の交流の機会となりましたが、当日は多くのお客様にご来場いただき、地域とのつながりは途切れていないことを実感しました。このつながりを大切にしながら、これからも地域の皆さまとともに歩んでいきたいと思えます。

(広報委員会)

* INFORMATION * 第三者評価受審結果と利用者アンケート結果報告について

万葉の里では、利用者の方々の「声」を聞く取組として、第三者評価、利用者アンケートを、毎年度実施しています。令和5年度は、「国分寺市障害者センター」において、生活介護、自立訓練、就労継続支援B型の三事業、「KOCO・ジャム」においては、生活介護の一事業にて第三者評価を受審しました。また、地域活動支援センターつばさ、指定相談支援事業、障害児相談支援事業、短期入所・日中一時支援事業にて、利用者アンケートを実施しました。

二つの取組をとおしていただきましたご意見、ご指摘、評価につきましては、職員間で共有し、今後の事業運営とサービス向上に活かしていきます。皆様のご協力、ありがとうございました。

なお、評価機構による評価結果は「とうきょう福祉ナビゲーション」のウェブサイトに掲載されております。また、利用者アンケート結果につきましては、万葉の里ウェブサイトにてご覧いただけます。



第三者評価



利用者アンケート



[通巻]第76号 [発行日] 2024年4月1日
[発行] 社会福祉法人万葉の里 〒185-0024 東京都国分寺市泉町2-3-8 ☎042-321-1212
[編集] (福)万葉の里 広報委員会 [制作協力] 有限会社七七舎 [印刷] 社会福祉法人ななえの里 ともしび工房
[発行所] 特定非営利活動法人 障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-17 ヴェルドゥーラ祖師谷102号室 定価50円



(広報誌Wordテキスト版)